

# PipeLine

特集

## 教養科目

教養科目授業の感想、意義、受講にあたってのアドバイス等



### No.59 Contents

特集「教養科目」	P1~9
自己点検・自己評価部会の活動紹介	P10
共通教育実施委員会からのお知らせ 高知大学リテラシーレベル数理・データサイエンス教育プログラム	P11

# 特集 教養科目

「教養科目」授業の感想、意義、  
受講にあたってのアドバイス等

## Part 1 学生記者から

人文社会科学部  
人文社会科学科  
社会科学コース  
3年

真崎 周星

### 「好きに学べる場所、大学」

大学の授業には、自分の選んだ学部の内容を学ぶ専門科目だけでなく、様々な分野を大体的に学ぶことができる教養科目があります。なんとこの教養科目では、自分が文系か理系などの学部を問わず好きな授業を取って学ぶことができます。私は人文社会科学部でしたがよくNHKでやっているような理科というよりは「おもしろサイエンス」のようなものが大好きでした。そこで「海洋学を考える」という授業を受けてみることにしたのですが、その授業では、「実は複雑なフナの繁殖様式」や現在高知大学で機械化養殖の実験を行っているなど普段人文社会科学部で勉強していると知らない様々なことを学ぶことができ、そこから自分の知らない物事に関して調べていく楽しさを知りました。新入生の皆さんも、自分の所属する学部で学びたいことはもちろんあるでしょうが、趣味程度に知識があり気になっている学問や全く知らない「こんな学問もあるんだ」と気になった学問など様々な授業を受けてみてください。きっと何か新しい発見があるはずです。

人文社会科学部  
人文社会科学科  
人文科学コース  
2年

西田 春花

### 「自由に選べる教養科目」

教養科目は、自分の興味・関心のある分野の講義でも、思い切って全く知らない分野の講義にチャレンジしてもいい自由度の高さが魅力だと思います。2年生から始まる専門科目ではその名の通り専門的な講義が受けられますが、それだけ前提知識を要求されることも多く、教養科目ほど気軽に未知の分野に挑戦することは難しくなります。その点、教養科目では事前知識の要求は少なく、修得単位的な意味でも履修の自由度が最も高い科目と言えるのではないのでしょうか。また、教養科目には専門科目への足掛かりになる講義もあり、自分の専攻に関わる講義を中心に履修して来年に備えておくことも、教養科目をきっかけに興味を持った分野についてさらに深く学ぶこともできます。

教養科目には多くの種類の講義があります。是非とも、自分の学科やコースに関係ある分野に留まらず、様々な講義のシラバスを読んでから履修登録をしてみてください。

教育学部  
学校教育教員養成課程  
2年

山本 真大

## 教養科目は「自分の興味のあることを学習する機会のひとつ」

教育学部社会科教育コース所属の山本真大と申します。教養科目に関して、この場を借りて少し説明をさせていただきます。

タイトルにもある通り、教養科目は、自分の興味のあることを学習する機会であると考えます。私の所属学部・コースでは、教育に関する講義や社会科に関する講義や演習がほとんどです。しかし、教養科目では、自分の専門以外の分野、代表的なもので例えるとスポーツ科学や第二外国語などの学問の履修が可能です。専門分野とは違って様々な分野の学問に触れることができるというのが、この科目の魅力の一つです。さらに、教養科目は自分の見識を広げることはもちろん、特定の分野で学問を究めようとされている教員から、新たな発見やより詳細な知識を得ることができる機会でもあります。学部の枠を超えて、より多くの教員や学生との交流ができます。

このように、教養科目には大学生活をより豊かにする魅力が存在すると思います。新入生の皆さんが、自分の興味のある科目を履修し、実りある大学生活を過ごせるよう願っております。

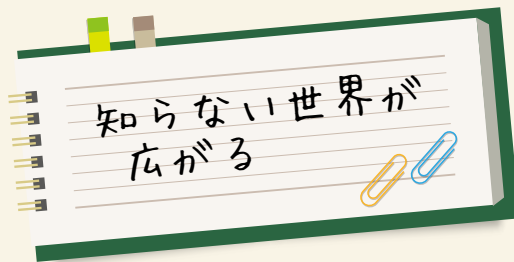
教育学部  
学校教育教員養成課程  
2年

吉本 妃那

教養科目は、自分が所属している学部だけでは学ぶことのできない幅広い学習ができるようになっています。例えば、外国語は中国語や韓国語、ドイツ語などアジア・ヨーロッパの言語について学習することができます。高校までは外国語といえば英語でした。しかし、大学ではいろいろな外国語を学ぶことができ、とてもいい経験になりました。

教養科目で私が実際に履修して役に立ったのは、情報社会と情報技術の授業です。この授業はインターネットの仕組みやパソコン操作、情報セキュリティなどについて学ぶことができます。パソコン操作は大学生になったばかりでまだ全然慣れていなかったためとても役に立ちました。

このように、自分が学びたいと思ったものを自由に履修することができるのが教養科目の良いところです。みなさんも、教養科目の履修を充実させ、素敵な大学生活を送ってください。



## 教養科目から新しい学びを得る

教養科目は、社会人として豊かな教養を育つことを目的とし、人文、社会、生命・医療、自然、外国語、キャリア形成支援の6分野で編成されています。学生は学部学科に限らず、自ら興味を持った分野の科目を履修し、物事の見方を広げることができます。また、理工学部の学生は教養科目のうちの4単位を地域関連科目から修得しなければなりません。

高知大生の多くは県外出身である中、共通教育の地域関連科目はこれから暮らす高知の現状を知り、直面する課題を探究することができます。私が履修した中で特に印象に残ったのは、「社会学を学ぶ」でした。この科目を履修した時は、単純に単位のためでしたが、実際に講義を受けてみると自分の知らない世界が広がりました。例えば、高知県は過疎化が特に進んでいることは知っていましたが、大豊町の峰集落に四人しか暮らしていないというほどの深刻な状況であることはこの講義を通して初めて知りました。地域関連科目を受講することで、これから学ぶ専門知識をどのように地域や社会に生かすかを発見できるかもしれません。



理工学部  
生物科学科  
3年

李 月軒



総合人間自然科学研究科  
(修士課程)  
理工学専攻  
生物科学コース  
1年  
下田 瑛作

## 「世界は広い」

教養科目では、幅広い領域に渡って受講することができます。本学に入学した学生でも、大学では専門性を突き詰めるために講義を受講したい、と考えている学生も多いと思います。実際に、入学時の自分も同じ考えを持っており、初めて見たカリキュラムに驚いたことを覚えています。初めての履修登録では、この授業難しそうだ…と思いながらも、専門から離れた授業をいくつか選択しました。しかし、その講義を受けた際の感想は、想像よりも敷居が低く自分でもついていける、というものでした。そのような授業には受ける意義は無いのではないかと考える方も居るかもしれませんが、なぜ？どうして？という好奇心を通して見ると、自分が知らない新しい、面白い世界に出会ったことに気が付きます。その出会いは新たな判断基準をもたらし、人生の岐路に立つときに役立つかもしれません。そうでなくても、世界に新たな価値観という彩りが加わる好機となるでしょう。

医学部  
医学科  
2年

前中 完太

## 心がまえ

教養科目の醍醐味は自分で授業を選択できることである。テキストに、先輩に言われるがまま、同級生が選んでいるからなんとなく、ではおもしろくない。選択するという機会に真摯に向き合い、真剣に考えて決断してほしい。人生は選択の連続で、そのどれもが、あなたが進学する大学と学部を決めたような大きな選択というわけではない。しかし、どの選択も人生を大きく変える可能性を孕んでいる。大事なのは自分で選択し、そこに責任を持つこと。真剣に向き合い自分で決めたことの先にある結果は、すべて自己責任。大学での学修とはそういうもので、何に対してどう向き合うかはすべて自己責任。私自身それを日々痛感している。私も教養科目を修得する過程の様々な経験を通して、大学での学修に必要な心がまえの基礎を養うことができた。まずは少し立ち止まって、授業選択の機会に真摯に向き合ってほしい。そうすればおのずから、これからの学びが有意義なものになるはず、お互いに有意義なものにしていきたい。

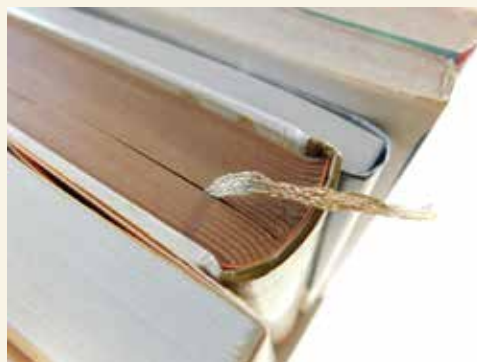
医学部  
看護学科  
1年

白根 明日香

## 「教養科目から学んだこと」

教養科目は学部学科を問わず様々な分野を扱い、学生が自分自身で興味・関心のある科目を選択できることが大きな特徴だと思います。大学は専門分野だけを学ぶべきだという意見もありますが、教養科目があることで様々な分野についての知見を広げることができ、何よりも学生自身が「選ぶ」ことで学びへの主体性が養われるのではないかと考えます。

実際に私は教養科目の社会分野である「憲法を学ぶ」を履修したことで自分の知識の幅を広げられたと感じます。この授業では憲法の条文を挙げながら社会のしくみについて学習しました。断片的にしか知らなかった社会の実際を学び、自分の専門分野である医療・看護には憲法がどのように関わっているのかももっと知りたいという思いも湧いてきました。教養科目は知見を広げるだけでなく専門分野とのつながりを探求する機会も与えてくれました。教養科目で養った学びへの主体性を今後も大学生活に活かして邁進していきたいです。



農林海洋科学部  
農林資源環境科学科  
3年

ホウ ケン

## 教養科目に関して

教養科目で今まで知らなかった分野を学ぶことができ、物の見方を広げることができました。特に私の学科では力学だけではなく、人文文化と地域環境などに対してある程度の知識が必要になります。教養科目のおかげで、違う視点から自分に関わりがある領域を見ることができました。二年生の時「香川の文化と歴史」を受講しました。その中で、香川の美術館の紹介にとっても興味を持ちました。また、世界でも有名な地中美術館では、作品と建築・展示空間が一体となって切り離せないところに特徴があることを知りました。これは、人文文化という視点から地域活性化へ繋がった成功例だと思いました。また、地域活性化のためには、その場所に特徴をつけることが大事であることを理解しました。自分の分野では、地域環境保全に関する専門科目がありますが、他の分野でもこのように地域環境に大きく関わりがあることが知りました。

勿論自分の専門分野の知識だけで生きていける人はいるとは思いますが、しかし、たいていの人はそうではなく、自分の専門の分野を生かしつつ他分野の人と関わっていく必要があります。ある程度専門外の分野に関しても知識が無いと、折角の専門分野の知識も生かせないと思います。教養科目で色々知識を学ぶことができ、本当に良かったです。

## 教養科目も専門科目と同じくらい重要だった

教養科目は、専門科目とは異なり、自分で自由に受講する科目を選ぶことができます。分野は、人文分野、社会分野、生命医療分野(スポーツ実技など)、自然分野、キャリア支援分野、外国語分野の6分野に分けられます。

私は、農林海洋科学部ですが、農学に関する学びや実習だけでなく、他の分野の授業で学んだことは今後の学校生活、将来に役立つものであると思っています。特に印象に残っている科目は、「多文化共生論」と「川と人の生活誌」です。私は、これらの授業を通して、自分の興味や関心を広げ、社会に対する考え方や自分の価値観を見直すことができました。

多文化共生論では、アジアを中心に、日本との文化の違いや日本の社会問題についても学びました。グループでの討論が活発に行われ、留学生や他学部学生との意見交換は、さまざまな視点から一つの問題を考えることができ、オンラインであっても積極的な姿勢で授業を受けることができました。

川と人の生活誌では、河川の公害やダム建設問題などについて学び、人と自然との共存について考えさせられました。私は農業土木に興味があるのですが、この授業を受けて人の生活を守るための土木工事は、専門的な知識も必要だが、地域住民の意見を尊重したものでなければ役に立たず、適切に機能しないものであることに気づき、土木の専門的な知識では学べないことを追究できました。

私がこれまで受講した中で特に印象的だったのは、「空想の博物学」という哲学・倫理系の授業です。

私が所属する「地域協働」という実践的な学問を専攻する者にとっては、「死とは何か?」「人間とは何か?」といった形而上的な問いは不要に思われます。しかし、結果的に、実践的学びを同時期にしている上で哲学を学ぶことは、双方の知見を深めてくれました。

「死の明確な定義をしななければいけないのは、現代だと、人間が勝手に生み出した『ルール』に乗るためのものがほとんどで…」「空想や想像は非科学的なこととイメージされがちだが、かつては『進化論』も空想とされていたことから、科学は「非科学的な発想」から始まる…」当時の自身のレポートを振り返ると、本授業は私の主専攻の“社会課題解決”に対して必要な思考の一つとされるクリティカルシンキングができるようになるための、大切な学びであったのだと感じます。自分の専門知とは離れた領域に踏み込むことで、相互的に学びが深まる、それを実感させてくれるのが共通教育の良さだと感じます。

農林海洋科学部  
農林資源環境科学科  
1年

荒川 水紀

地域協働学部  
地域協働学科  
4年

森野 純夏

地域協働学部  
地域協働学科  
3年

柳原 伊吹

## 共通教育授業を受けての意義

共通教育授業を受けて良かったと考える事は、趣味趣向で一定の授業について学べるため専門科目以外の知識も必要になった時や将来のために他学問の基礎を学べた事である。

私自身は地方創生について学びたいという意思で地域協働学部に入ったので学部の専門科目では経済学、経営学、社会学などの学問分野が基本となってくる。しかし、他にも必要になる知識や教養のようなものも存在する。就職活動に役立った授業、マーケティングの基礎を理解しておく上で有効だった授業、心理学の基礎について知る上で役立った授業など、専門科目でなくても必要になる時に基礎知識として学んでおくと全く理解できない所のスタートではなく一定の知識を持った上で補完していく事ができるという意味で有意義だったと考えている。

他に有意義だったと考えているのは、他学部生との出会いや他学部生との交流の機会があった時の話のきっかけにできた事である。共通教育は他学部の人々と合同の授業なので出会いがあるのは当然であるが、大学内で他学部の人と知り合っても最初から趣味の話をするのは難しい時もある。そのため共通教育の授業からの共通点を聞いたり、専門科目の基礎となっている共通教育の話から話を進めていくこともできたりしたからである。



「教養科目」授業の感想、意義、  
受講にあたってのアドバイス等

Part 2  
教員から

人文社会科学部

赤間 聡

### 「法を学ぶ」

2022年1月15日、トンガ沖で起きた海底火山の噴火は、8000kmも離れた日本にまで津波をもたらし、高知県においても、漁船が転覆するなどの被害が発生した。ところで、最近、ガソリンや灯油が高値を維持している。コロナウイルス・パンデミックの終わりが近づき、世界的に経済活動が再開し、結果、原油の需要が膨らんだからだ。加えて、ロシア軍によるウクライナ侵攻により、原油の供給不足の問題も深刻化している。

上の二つの記述、「噴火と津波被害」及び「ガソリンの高値とコロナの収束など」に関する記述は、学問は現実とどのように向かいあっているのかを教えてくれる。津波を神の仕業としたり、人工的に発生させたものとする陰謀論のような考え方もあろうが、このような考え方は大学で学問を学ぶ者の姿勢ではない。既存の物理法則・運動法則を前提に、噴火の衝撃とその力がすべて解消されるプロセスとして、津波を理解することが学問的な姿勢である。ガソリンの高値についても同様で、需要と供給の経済法則を前提にすれば、上のような説明が成り立つ。

大学の教養課程においては、様々の科目が用意されているが、その多くは上で述べたように、現実の「なぜ」について、法則を用いて説明するものである。すなわち、「～を学ぶ」「～を考える」等の名称の教養科目は、現在・過去・あるいは将来起きるであろう特定の現実を切り出し、それを既存の法則を用いて説明し、もって受講者の現実に対する説明能力を改善しようとするものである。ところが、法律学「法を学ぶ」については、これが当てはまらない。下に一例を挙げてみよう。

アメリカ、ニューヨーク州地裁は2022年1月24日、コロナウイルス感染症対策として州知事が出した命令、公共の場でのマスク着用義務を、取り消した。その少し前にも、米連邦最高裁は、大企業の従業員に新型コロナウイルスワクチン接種を義務付けるジョー・バイデン政権の政策が実現をみる前に、これを差し止めた。「なぜ」か。科学的な感染症対策をなぜ裁判所は認めないのか。理由はアメリカ政府の感染症対策が「違法」だからである。これは科学法則を前提に裁判所の態度を説明しているわけではない。否、そもそも、これは科学的な説明ですらない。法律学は現実を科学的に説明するわけではないのである。また、この学問は、上のように、場合によっては科学的な対策そのものを否定することにもつながる。

法律学は、物理学や経済学のように、現実を説明する科学、経験科学に対して、「規範科学」として分類される。経験科学は世界を「原因と結果」で判断するのに対して、規範科学としての法律学は世界をすべて「合法と違法」で判断する。迷惑系YouTuberはしばしば処罰される。なぜか、その行為が違法だからである。楽天市場の送料無料は許されない。なぜか、違法だからである。

「法を学ぶ」はこのように受講者の違法・合法判断能力を養成するものである。この能力の獲得をこれまで日本人は軽視してきた。「違法」を口にすれば、和を乱し、スムーズな人間関係にひびが入り、社会はうまく回らないこともあるからだ。だが、これからは、法を学び「違法は違法だ」と口にしよう。たとえ、それが人間関係やコミュニティを徹底的に破壊することになろうとも。「天が落つるとも、正義は行はれよ」(fiat justitia, ruat caelum)。法を学ぼう。

教育学部

岩城 裕之

## 法則を見つける。そして、裏切られる話。

みなさんは「エモい」という語を使うだろうか？ 最近改訂された『三省堂国語辞典』に掲載されてちょっとした話題になったのだが、この「エモい」、一過性の流行で終わらずに残っていると、日本語の法則上大きな例外になる大したやつなのだ。

「エモ」は「エモーション」という外来語(英語)である。外来語が形容詞のような働きをするとき、形容動詞の形になるのが日本語の法則である。「ビッグな」「スマートな」のようになるのが普通で、形容詞「ビックい」「スマートい」にはならない。

しかし時折、「ナウい」のように法則を破って形容詞になろうとするものもある。が、法則を破るもの達の多くは生き残らなかった。その一方、生き残った(法則を破った)ものもある。「エロい」「グロい」など、ちょっとお下品な分野ではなぜか成功しているのは興味深い。

スペースがあるのでもう一つ。ちょっと前の話だが、流行語と言われるものの中に、ついに、ことばを超越したものも現れた。すでに古くなってしまったが「まじ卍(まじまんじ)」の「卍」である。「卍」はそもそも言語なのか？ 言語の定義や法則を揺るがすような例であった。こんなものが出現して、日本語学を研究する私たちは正直戸惑ったのである。あまりにも「ぶっとんで」いたので、長く続かず消えてしまったが、今後もこのような流行語(?)が出てくるかもしれない。

このように、法則を見つけたと思ったらそれを破る例が出てくる。規則を作ったら、それを破る人、さらにナナメ上をいこうとする人が出るという人間世界の状況に似ていなくもない。

学ぶこと、研究することのおもしろさの一つに、法則の発見とそれを乱すものの発見があるように思う。みなさんも共通教育で様々な授業を受け、身のまわりを見回すと、様々な分野で法則の発見と裏切りの体験ができることだろう。意外に癖になるかも、ね。

理工学部

近藤 康生

## 教養科目はどう選ぶ？

皆さんが大学に入学した目的は、自分が興味を持つ専門について勉強するためという人が多いと思うのですが、これはもっともな考えです。私たちは社会の中で生きていくために特殊な知識や技能を身につけて他人との差別化を図らざるを得ない状況で生きています。大学の学部で学ぶ専門科目はこういった目的に役立つ可能性があります。

一方で、共通教育の教養科目は、人文・社会・自然の各分野ともに、それぞれ長い人類の知的格闘の歴史が刻まれています。生きる上で直接役立つ知識や技能とは別に、こういった人類の知的遺産に触れるのは贅沢な楽しみと言えるでしょう。実際、書店を覗くと、哲学・宗教、歴史といった、まさに教養に関わる書籍が絶えず出版され続けており、テレビやラジオでもこういった教養番組が増えているような気がします。今どきは、こういった学びの機会はあらゆるところにあふれていますが、その道のプロである大学教員から直接話を聞いて学べるのは、良いきっかけになるはずです。

教養科目の選択に当たっては、履修規則の範囲であれば、興味のおもむくままに選択しても問題ありません。しかし、知識の偏りを補うようにあえて不案内な科目を選んで良いし、第2の専門にするという意気込みで複数の関連科目を履修するのも良いでしょう。できれば入学時に、今後の4年間を見据えて、教養科目選択の明確な作戦を立てておくことをお奨めします。

ちなみに、私は、他の5名の教員とともに、「地球と宇宙」という自然分野の授業を担当してきました。この授業では、宇宙に関わる最新情報や太古の地球についての話などがおもしろい内容なのですが、しばらく前から「朝倉キャンパスの立地を探る」という授業を始めました。身のまわりの環境・立地を理解することも立派な教養との思いからです。授業の感想を聞いてみると、朝倉キャンパスが鏡川の扇状地に立地していることは意外と意識されていないようです。大学への通学時に、扇状地の微地形を観察しながら歩いてみるといろいろ気づくことがあるはずです。こうした観察と教科書で学ぶ知識をすり合わせることによって知識を本当に身につけられる、ということに気づいていただけたらと思います。



医学部

山口 正洋

## 医学とは何かを早期に学ぶ「医学概論」

1年生は希望に満ち、向学心に燃えて入学してくることでしょう。入学の早い時期に学びに対する強い動機付けが得られたら、その後の大学生活を一層有意義に過ごせます。医学科1年生の教養科目「医学概論」は、「医学とは何か」のイメージを早い機会に持ってもらい、意欲的、主体的に学修に取り組んでもらう土台を作ることを目指しています。医学には、からだの仕組みや病気を学ぶだけではなく、職業理念、職業倫理、社会との関係、人とのコミュニケーション、高齢化社会への意識、など幅広い「教養」が必要です。また最近、教養とは問題を見つけて解決する能力とよく言われます。大学は新しい発見をし、新しい価値を生み出すところですし、学生さんにはそのような気概を持ってもらわなければいけません。医学科の選択科目として2-4年生の3年間、所属する研究室を選んで研究活動を行う機会がありますので、医学概論の後半では様々な研究室を紹介して研究への積極的な参加を促し、研究マインドの涵養を行っています。

これらの講義は概ね好評のようで大変嬉しいことですが、一方でちょっとした不安、不満もこの機会にお話しさせてください。この科目に限らずほとんどの講義は、教員が学生に必要なことを考えて、いわばお膳立てして行っています。当然のことではあるのですが、この傾向は強くなるばかりで、大学が自らの存在意義を「職業訓練校」に落とし込んでいます。大学には、将来に向けた目的駆動型の学びを提供することに加えて、好奇心に駆動された自由な学びの場を提供する使命がありますし、好奇心、遊び心をいつまでも持ち続けて自分の「知」を広げていくこと、そのこと自体が教養と呼べるものではないかと思っています。医学概論ではいろいろな教員が入れ替わり立ち代わり講義しますし、考え方や価値観の多様性を知るいい機会でもあります。高知大学の各キャンパスは少し離れていますが、最近のオンラインの普及を追い風に、他学部の学生さんがふらっと講義を聞きに来ることが日常になればと思っています。

## 私にとっての「教養」

2016年に公開された映画「シン・ゴジラ」を皆さんご覧になりましたでしょうか。物語の序盤、巨大生物の存在を確認したのち、政府は緊急有識者会議を立ち上げ、御用学者を招きます。巨大生物上陸の危機が刻々と迫る中、その席で学者たちは、「新種の生物、それ以上はなんにも言えません」、「実証もなく、憶測だけで判断するなど、科学とは言えないでしょうが」と、科学的見地に基づいたもっともらしい正論を延々と述べます。会議を終え、大杉漣演じる首相はこう吐き捨てます。「時間を無駄にした、誰でもいい、話の分かるやつを連れてきてくれ」と。「話の分かるやつ」ではない、と判断されたこの御用学者達に足りなかったものは何だったのでしょか。

劇中のこのシーンは、いささかステレオタイプの学者・研究者をシニカルに描いたものではありますが、確かに大学教員である私を含めた現実の学者・研究者も、専門性に拘るあまり、視野が狭くなる場面がしばしばあるように思います。この場面において学者達は、政府の求めるもの、すなわち国民の安全確保に関わる情報という視点を持って、自身の専門知識・技術を発揮すべき場面だったのではないのでしょうか。

私の専門である農業農村工学の分野でも、実務の中で様々な立場の人と接する機会が多くあります。一般企業や県庁の職員、農家や漁師のおんちゃんまで、まさに異質性社会の中に身を投じ、日々神経をすり減らしています。そこでは、自身の専門知識・技術のみが求められるだけではなく、様々な立場を俯瞰した上での立ち振る舞いが求められていると強く感じます。

私にとって「教養」とは、自身の学問知識・技術を実学として発揮するための、「広い視野を育むこと」だと考えています。さて、皆さんにとっての「教養」とは、一体どのようなものでしょうか。大学では今日も色んな「教養科目」が開講されています。せっかくの学生時代、皆さん各々の「教養」をしっかり育んでいって欲しいと願います。

農林海洋科学部

齋 幸治

地域協働学部

石筒 覚

## コロナ禍で取り組んだ国際交流 ～国際協働演習の取り組み～

共通教育で行われる国際交流の取り組みとして、教養科目社会分野で開講されている国際協働演習ⅠとⅡがあります。Ⅱは実際に海外に行って現地で研修を実施し、Ⅰはそのための事前・事後学習という位置づけでしたが、国内外での新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、そのような形での授業ができなくなりました。そのため、2021年度はⅠの事前学習部分を通年で開講し、県内の現地研修とオンライン同期型の学習を織り交ぜて実施しました。

具体的には、高知県西部に位置する黒潮町をフィールドとして、地域の資源や文化を学び、その魅力を海外の学生に伝えるためのオンラインイベントを12月に2回開催しました。現地研修では、和紙づくりや天日塩づくりのほか、かつおのたたきづくりといった、地域の持つ文化や資源の活かし方について実体験を通じて考えるとともに、Tシャツアート展や津波避難タワーなどを訪問して、地域の取り組みや課題への向き合い方を学びました。

オンラインイベント「Discover Kuroshio Town」は、本学の留学生やインドネシア・タンジュプラ大学の学生の協力を得て、すべて英語で行われ、高知大学の大学間交流協定校の学生を中心に、2日間で延べ42名の参加がありました。日本人学生が黒潮町の魅力をプレゼンテーションした後、外国人学生と質疑応答やフリートークの場が設けられ、活発な交流がなされました。コロナ禍にあって、制約も多々ありましたが、学生たちはとても意欲的、積極的に参画すると同時に、国際交流の面白さも実感してくれたのではないかと思います。以下では、参加した学生の声を紹介します。

人文社会科学部 1年生 三本 真子

この授業では、地域の何をどのように理解しているのかという認識や、本当に伝えるべきことは何かという伝え方について考えることの重要性を学びました。加えて、地域に絡めて自分自身をも振り返ることで、その地域への理解の仕方に大きな変化がありました。地域を見る目が変わる授業だったと感じています。

農林海洋科学部 2年生 砂川 理彩

黒潮町を実際に訪れて天日塩や和紙作り体験などを通して、五感で感じたことを外国人に英語で分かりやすく伝える方法を学ぶことができました。また、12月に行った黒潮町の魅力を紹介するイベントでは、インドネシアの学生と共にポスター作りやMC、プレゼン内容まで話し合いを重ね、充実した活動を行うことができたと思います。

医学部 1年生 今井 梨香子

この授業を受けて最も印象的だったのは、英語はコミュニケーションツールに過ぎないということです。それよりも何を話したいのか、バックグラウンドが違う相手にどうやって理解してもらおうかが難しく、試行錯誤の日々でした。日本とインドネシアの学生と共同でオンライン発表したことは、とても良い経験になっています。

人文社会科学部 1年生 田中 愛珠

どんなに拙い英語でも話さなければ何も身につかず、得るものもない。また、自分が積極的に発言しようとする姿勢を見せることで、相手は待ってくれたり、ゆっくりと話してくれたため、失敗を恐れずに発言していくことが大切であると思いました。「コミュニケーションとしての英語」は机に向かって勉強するだけでなく、実践の場を通して身につくものであるということを改めて実感しました。

失敗を恐れず  
コミュニケーションを  
取ることが大切

# 自己点検・自己評価部会の活動紹介

自己点検・自己評価部会

杉田 郁代

今号では、自己点検・自己評価部会の活動について紹介します。本部会は、共通教育主管の下、各分科会と連携・協力しながら教育力向上の取組に関わる2つの活動を行っています。一つ目は、シラバスの改善支援に携わっています。二つ目は、eポートフォリオ上に設置されている Reflective Monitoring を含めた授業評価アンケートの評価活動の統括を行っています。

自己点検・自己評価部会の活動について、説明していきます。一つ目のシラバスの改善では、公正な成績評価が行われるよう、シラバスの授業計画及び成績評価基準等を適正な内容になるよう学生の皆さんに公開する前に点検を行っています。この点検は、担当教員の行うセルフチェックを経て、各分科会内で教員同士による点検(ピア・レビュー)を行います。点検の結果によっては、修正を担当教員に依頼します。そのような一連の作業を経て、学生の皆さんにシラバスを公開しています。

なぜ、シラバスを点検する必要があるのでしょうか?『教学マネジメント指針』(文部科学省、2021年)によると「シラバスについては、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図る上で極めて重要な存在」とされています。シラバスは、皆さんの学修にとって、大変重要な存在です。よって、本部会では、シラバスの点検を行い、学生の皆さんたちに公開しています。

二つ目の Reflective Monitoring を含めた授業評価アンケートは、eポートフォリオに搭載される Reflective Monitoring を含めた授業アンケートを用いて、受講生の皆さんに授業について振り返って回答してもらうものです。

e-ポートフォリオには、授業を振り返る3種類のアンケートが格納されています。① Reflective Monitoring、② 授業評価アンケート(授業最終回に行うアンケート)、授業改善5週目・15週目アンケート(アクションプランによる授業改善のためのアンケート)が格納されています。このアンケートの使用は、教員によって、用いるアンケートが異なります。アンケートに回答する際は、授業担当の教員の指示に従ってください。

## Reflective Monitoring を含めた授業評価アンケートの目的は3つあります。

1. 学生は、個々の授業における到達度・理解度などについて振り返りを行うことで、DPの到達度、身につけた知識・能力・スキルなどについて自己評価を行い、次の学びに向けた目標をたて実行する機会とする。
2. 教員は、学生のモニタリングを通じて、個々の授業について振り返り、授業改善を行う。
3. 学部・学科・コースでは、モニタリングの結果を、DP(ディプロマ・ポリシー：意味：学位授与方針)<sup>※1</sup>を達成するためのプログラム・レビューの基本データの一つとし、カリキュラム等の改善に利用する。

「Reflective Monitoring 実施要領案」より引用

上記のように、学生の皆さんの回答は、授業改善に加えてカリキュラム等の改善に資する重要な重要なデータです。

最後に、学生の皆さんに、お願いがあります。

授業を選択する際には、シラバスにしっかり向き合って、理解したうえで、授業に臨んでほしいです。シラバスを読んで、不明な点があれば、担当教員に確認しましょう。

高等教育において、「何を教えたか」から、「何を学び、身に付けることができたのか」への転換が必要(文部科学省、2018)とされています。学生の皆さんの学修を中心に据えた教育が求められています。よって、シラバスを確認するとき、授業評価アンケートに回答するときには、「何を学び、身に付けることができたのか」について、意識を向けてほしいです。授業評価アンケートに回答する際には、この授業で「何を学び、身に付けることができたのか」と自己内対話を行いながら、振り返ってみましょう。併せて、シラバスに記載された到達目標の達成度についても確認しましょう。

引用文献：

文部科学省中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」平成30年11月26日

[https://www.mext.go.jp/content/20200312-mxt\\_koutou01-100006282\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200312-mxt_koutou01-100006282_1.pdf)

閲覧日：2022年1月27日

文部科学省中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」令和2年1月

[https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt\\_daigakuc03-000004749\\_001r.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200206-mxt_daigakuc03-000004749_001r.pdf)

閲覧日：2022年1月27日

「Reflective Monitoring 実施要領案」平成29年度第7回大学教育創造センター  
企画会議 資料5-1

※1「高等教育のグランドデザイン」用語解説

[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2018/12/17/1411360\\_6\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/12/17/1411360_6_1.pdf)

閲覧日：2022年1月27日

## 高知大学リテラシーレベル数理・データサイエンス教育プログラム

高知大学 学務課 全学・共通教育係

近年の社会では、デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展に伴い、データサイエンス(DS)を正しく理解し、扱うことができる人材が求められてきています。

高知大学では、上記のような社会からのニーズを受け、令和3年度に「高知大学リテラシーレベル数理・データサイエンス教育プログラム」を開設しました。本プログラムは、その名前のおりりテラシーレベルの数理・データサイエンスを学ぶための教育プログラムであり、修了するためには、共通教育において必修の「情報処理」、選択A群及び選択B群から各1科目ずつの計3科目の修得が必要です。既定の科目を修得後、本学から認定を行います。また、認定者には修了証の授与を予定しています。

本プログラムは、**令和2年度以降入学生を対象**に実施しており、令和4年度も下記科目が開講されますので、興味のある方はぜひ履修登録して受講してみてください。

区分	科目名(共通教育)	単位数
必修	情報処理	2
選択A	DXとビジネス創出	2
	さわってわかるAI講座 ～基礎理論からクラウドサービスを使った実践まで～	2
選択B	データ活用のためのプログラミング入門	2
	データサイエンス実践課題演習	2

### 編集後記

AIやデータサイエンスを取り込んだ学習プログラムが徐々に各所で浸透しつつある昨今。データサイエンス教育を本格的に取り入れ始めた大学も散見します。実は共通教育実施体制もそれを包摂するように改革が求められています。皆さんのデータ・情報リテラシー向上のために高知大学も進化します。乞うご期待。(S)



高知大学共通教育広報誌 [ハイライン]  
PipeLine No.59

発行 / 高知大学共通教育実施委員会  
編集 / 共通教育実施委員会広報部会  
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1  
☎088-844-8168(学務課全学・共通教育係)

発行日 / 2022年3月  
制作 / (有)西村謄写堂

広報・記事についてのご意見をお待ちしています。  
Mail : gm06@kochi-u.ac.jp